手投石

八乙女城の北側には急な断崖があり、ここをよじ上って安倍の陣地を内から撹乱する戦法がひそかに練られているという風評があったので、安倍軍は断崖をよじのぼる者には上から石を投げつけて防ぐ準備をし、その断崖の上に手投石を積んでおいたのが、使われることもなく、そのまま固まって岩となったと伝えられ、今も手投岩と呼んでいる。